

第 3 回海洋深層水研究所のあり方検討会 論点整理

●取水分水機能について

①取水量

現状の使用量の精査や想定される各種利用形態ごとの海洋深層水の必要取水量について試算する

- ・ 現在の使用量の精査（研究開発、飲料、食品、化粧品等、小規模陸上養殖施設等）
- ・ 将来的な必要量の試算（大規模陸上養殖施設、インキュベーション施設、大規模飲料水製造、海洋温度差発電等）

②BCP 対策

室戸岬東部に設置することを前提として、発生しうる自然災害等に対して取水・分水機能を継続するための計画を講じる。

- ・ 台風時
- ・ 地震・津波時
- ・ その他災害
- ・ 事前復興

③その他

他県の取水地の現状（稼働状況、課題、トラブル事例等）についての調査、取水・分水機能に関する先端技術の調査を行う

- ・ 他県の取水施設の現状

取水・分水機能に関する先端技術調査

④取水施設

将来的な必要量の試算等を元に、現在の状況を踏まえたシミュレートを行う

- ・ 数、規模、場所、時期、分水機能
- ・ 設置管理運営体制
- ・ 表層水取水の必要性

●研究機能

①対象分野

今後の海洋深層水の利用分野について、各種分野ごとに期待される研究課題について調査を行う。また、過去の取組事例についても社会状況の変化から再注目に値するものを発掘する

- ・ 産業分野
- ・ 健康医療分野
- ・ 環境・エネルギー分野
- ・ 教育分野

- ・ 海洋調査分野
- ・ 微生物分野
- ・ 過去の取組事例

②研究者（機関）の参画方法

想定される研究機関や各機関の研究者の参画方法から研究機関として理想的な運営形態を検証する。

- ・ 想定される研究機関（公設試、国研等、大学等、自治体、企業、個人）
- ・ 参画方法（有給・無給、常勤・非常勤、フルタイム・パートタイム、クロスアポイント等）

③研究資金

研究に必要な資金の調達方法や利用促進のための各種助成について、現行の制度を元に実現可能性を検証する。

- ・ 研究資金調達（公的資金、クラウドファンディング、SIB、企業版ふるさと納税制度等）
- ・ 研究補助制度

減免措置

④研究施設

研究施設のあり方として、単独完結型以外で他機関との連携を前提としたシミュレーションを行う。

- ・ オンサイト研究施設（+インキュベーション施設）
- ・ オフサイト研究施設（他の研究施設との連携）

●その他機能

①調査観測データのオープン化（ex.地震発生兆候予知）

深海の状況をリアルタイムでほぼ直接的にモニタリングできる機能があり、これまでに蓄積した調査観測データを保有することから、地震発生等に関するバックデータとしてオープン化を行う。

- ・ 水温、pH、化学分析値等の経年変化
- ・ 取水管迷入魚の季節変動